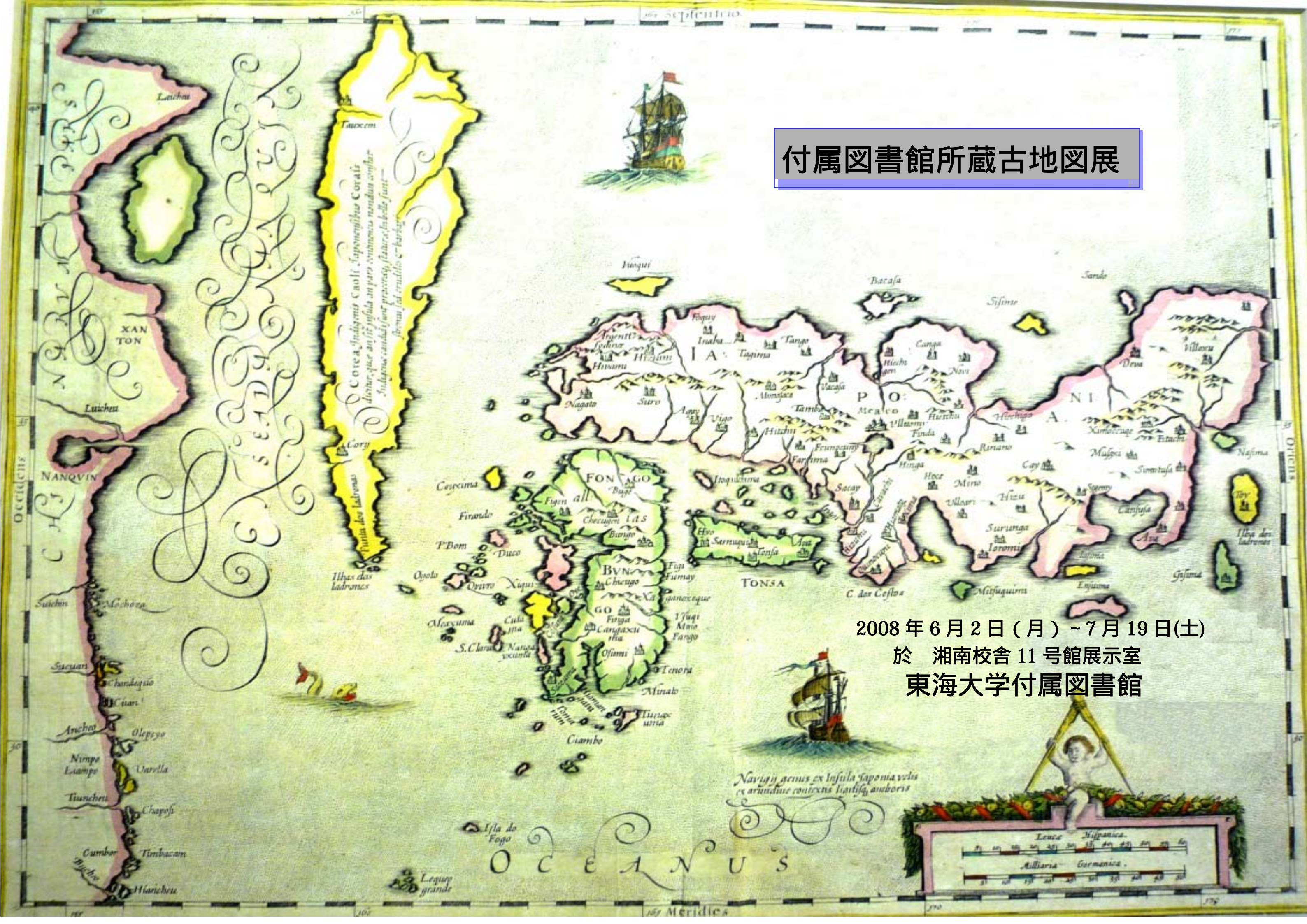


付属図書館所蔵古地図展



2008年6月2日(月)~7月19日(土)
於 湘南校舎11号館展示室
東海大学付属図書館

1 Orbis terrarvm vetiribus cogniti typvs geographicvs

[Johan Janssen(Jansson, Jan, 1588-1664)]
1640年 1舗 41 x 51cm
ヤンソン「世界地図」

2 天下地図(てんかちず)

17世紀頃 1舗 112 × 87cm
厚手朝鮮紙に石版による朝鮮版世界図
地図中ヨーロッパの位置に、「利瑪竇」(= マテオ・リッチ Ricci, Matteo, 1552-1610)の名を記している。

3 山海輿地全図(さんかいよちぜんず)

江戸後期 6曲 1双 149 × 309cm
No.4をもとに屏風仕立てにしたもの。No.24の「大日本輿地細図」と対をなす。

表紙

4 地球万国山海輿地全図説

(ちきゅうばんこくさんかいよちぜんずせつ)

長久保赤水(1717-1801)著
天明中刊(18世紀頃) 1舗 102 × 155cm
中国で活躍したイエズス会宣教師マテオ・リッチの「坤輿万国全図」をもとにして、水戸藩の儒学者で地理学者でもある長久保赤水が刊行した。

表紙

一口メモ<マテオ・リッチ世界地図とその影響>
1602年北京で「坤輿万国全図」(こんよばんこくぜんず)という漢語を用いた世界地図が、イタリア人 イエズス会士マテオ・リッチ(利瑪竇)と、中国人の協力者によって刊行された。中華思想を配慮してアジアを世界の中心に置き、メルカトル図法など16世紀の西洋地図の技法が用いられた形跡があり、新大陸はじめ大航海時代にヨーロッパが獲得した世界地理の新知識を概括して受け入れている。中国で流布しただけでなく、日本や朝鮮へもたらされ、17・18世紀の東アジアにおける世界地理知識に大きな影響を与えた。この地図を手本とする刊行図は18世紀末の長久保赤水の世界地図以降、幕末にいたるまで多くの海賊版・異版本が生み出された。

5 日本路程全図 (にほんろていぜんず)

長久保赤水原図 鈴木驥園増訂
出雲寺万次郎 嘉永5年(1852)刊 12舗 35 × 47cm
長久保赤水の原図を刊行したもの。すでに緯度が入られている。

表紙

6 蝦夷圖境輿地全図(えぞこうきょうよちぜんず)

藤田良編
江戸 播磨屋勝五郎 嘉永7年(1854) 1舗 121 × 99cm
幕末期の北海道、千島列島、サハリン地方を中心に、詳しい地名、陸路・海路も記入されてる。下部分に一部津軽半島も見える。

表紙

7 陸奥ノ北国松前 : 大日本国郡名所 (むつのほっこくまつまえ だいにほんこくぐんめいしよ)
橋本玉蘭貞秀(1807-1878?)画
明治元年頃(1868)刊 1枚 22 × 34cm
橋本玉蘭貞秀が東北、北陸を中心に旅して描いた一覽もの「大日本國郡名所」のひとつ。蝦夷地の松前城下の様子を描いたもの。

8 関東路程便覧 (かんとろうていびんらん)

弘化4年-慶応3年(1847-1867)刊 5舗
関八州全図(52 × 69cm)、関東八州路程便覧(52 × 73cm)、関東十九州路程便覧(74 × 99cm)、東都近郊図(52 × 77cm)、[関東十九州路程便覧](74 × 99cm)。

表紙

9 利根川図志 (とねがわずし)

赤松宗旦(義知)(1806-1862)著 二世北斎等画
安政2年(1855)刊 6巻6冊 26cm
利根川中流域より、下総銚子までの左右兩岸を扱った絵入りの地誌。

10 榛名詣(はるなもうで)

清水玄叔述
西村与八 享和3年(1803)刊 17丁 18cm
題簽に「享保新撰 上州榛名詣」とあり
上野国(現群馬県)榛名山ならびにその周辺の風景、名所旧跡、神社仏閣などについて記したもの。

表紙

11 房州 誕生寺詣(ぼうしゅうたんじょうじもうで)

京井蘭山校
江戸 鶴屋金助 文化14(1817)刊 15丁 18cm
題簽に「房州小湊 誕生寺詣」とあり
江戸日本橋より安房小湊誕生寺にいたる沿道の駅名、名所旧跡、神社仏閣ならびに誕生寺の風景、由来、縁起などについて記したもの。

表紙

12 増補 江戸大絵図絵入 (ぞうほえどおおえずえいり)

江戸 表紙屋市良兵衛 延宝7年(1679)刊 1舗 145 × 126cm
江戸前期、生類憐れみの令で有名な五大將軍綱吉の頃に刊行された地図。江戸城東南部のあたりまであった「日比谷入江」あたりの埋め立てがされ、現在の日比谷、新橋、浜松町付近に、大名の藩邸が建ち並んでいるのが分かる。

表紙

13 江戸切絵図 (えどきりえず)

江戸 尾張屋清七 嘉永2年(1848) 28舗 50 × 54cm
題簽に「御江戸大名小路絵図」とあり
地域区分の一体性を重視したため、形状が不正確である。彩色刷のため人目を引いた。

表紙

14 横浜開港見聞誌(よこはまかいこうけんぶんし)

橋本玉蘭(五雲亭貞秀)編・画
文久2年(1862)序刊 6冊 24cm
開港直後の横浜の案内記・見聞記。横浜浮世絵の第一人者ともいわれている五雲亭貞秀の挿絵により、外国人の風俗・習慣など当時の事情を知ることができる。

表紙

一口メモ<橋本玉蘭貞秀>
(はしもとぎょらんさだひで)(1807-1878?) 幕末から明治初期に活躍した浮世絵師。 初代歌川国貞(三代豊国)の門人で、五雲亭または玉蘭齋と号し、役者絵・美人画・風景画など多くの挿絵を描いた。中でも風景画的な鳥撒図を最も得意として、全国の名所を歩き、多くの作品を残している。幕末期の横浜絵(幕末に開港した横浜と居留する外国人、外国風俗を扱った浮世絵)の第一人者でもある。また地図にも深い関心を示し、日本図、世界図、地方図なども多数作製している。

15 御開港横浜之全図(ごかいこうよこはまのぜんず)

歌川貞秀(橋本玉蘭)著
江戸 宝善堂 安政6年(1859)刊 1舗 70 × 191cm
丸屋徳造蔵版彩色刷
安政6年(1859)頃の横浜港を子安の方角から眺めた図である。

表紙

16 御開港横浜外国人住宅之図(ごかいこうよこはまがいこくじんじゅうたくのず)

江戸後期-明治初期頃刊 1舗 63 × 191cm
横浜の外国人居住区の地図。イギリス、アメリカ、オランダ、フランス人の住居、商館の位置が分かる。前田橋を渡った左奥に外国人墓地も見える。

表紙

17 横浜海岸通之図(よこはまかいがんどりのず)

歌川広重(三世)画
江戸 伊勢屋喜三郎 江戸後期-明治初期頃刊 3舗 37 × 25cm
「御開港横浜之全図」の異人波止場と日本波止場を拡大した図である。

表紙

18 鎌倉詣 (かまくらもうで)

[江戸] 鶴屋喜右衛門 文政6年(1823)刊 20丁 19cm
鎌倉及び金沢の名所旧跡・神社仏閣を訪れたことを報告する形の文章で、それらの景趣・由来・縁起等について記したもの。

19 江嶋詣(えのしまもうで)

藤耕徳筆
鶴屋喜右衛門 寛政(1789-1801)頃刊 13丁 18cm
江戸より江ノ島にいたるまでの、風景、名所旧跡、神社仏閣などについて記したもの。別名「江之島詣文章」。

表紙

20 相模国大隈郡大山寺雨降神社真景(さがみのくにおおすみぐん おおやまでらあぶりじんじしゃんけい)

歌川貞秀(橋本玉蘭)画
広小路林庄板 安政5年(1858)刊 3枚 37 × 25cm
錦絵三枚続
左端には江ノ島、右奥には富士山を望む大山神社を含めた、大山全景の錦絵。大勢の参拝者も描かれ当時の活気がうかがえる。

21 出嶋阿蘭陀屋舗景 (でじまおらんだやしきけい)

長崎 長崎文献社 1舗 45 × 59cm 複製
江戸時代、出島の珍しい風景は肉筆や長崎版画として国内外に愛玩された。本図はそれらの版画のうち最も大型で、しかも内部風景には阿蘭陀人、丸山遊女等が点在する代表的な古版画。豊嶋屋文治右衛門板(江戸末期)の版木より印刷したもの。



22 laponiae nova descriptice

[Gerhard Mercator](1512-1594)
1706年 1舗 34 x 44cm
メルカトル「日本地図」
目的地への航路の角度が読みやすいという、大航海時代が生んだ地図。彼の名を冠した投影図法(メルカトル図法)によって画かれたものである。

23 新刻日本輿地路程全図(しんこくにほんよちろていぜんず)

長久保赤水著
浅野弥兵衛 文化8年(1811) 1舗 85 × 130cm
日本で初めて経度、緯度線を入れた長久保赤水の「日本輿地路程全図」。

表紙

24 大日本輿地細図(だいにほんよちさいず)

江戸後期 6曲 1双 149 × 309cm
「日本路程全図」(長久保赤水原図)をもとに屏風にしたもの。No.3の「山海輿地全図」と対をなす。

一口メモ<長久保赤水>
(ながくぼ・せきすい)(1717-1801)水戸藩の儒学者、地理学者。日本で初めて経緯度線を入れた地図である「日本輿地路程全図」(1779)を作成した人物。與地とは大地、全地球、全世界を表す言葉。それまでにあった地図と比べるとより正確なもので、長久保の地図は多く庶民に普及し、日本地図の先駆者と呼ばれる。また、長久保は徳川光圀の「大日本史」地理志等の編纂にも関与した人物でもある。

表紙

25 官版大日本沿海実測録(かんぱんだいにほんえんかい じっそくろく)

伊能忠敬測定(1745-1818)
大学南校 明治3年(1870) 14冊 26cm
伊能忠敬が1800年から1816年にかけて全国を測量した際の記録を刊行したもの。距離の測定には歩測と間棹、間縄を併用し、方位の測定には磁石を使い、高い山の頂の方位を精密にはかることで補正を加えた。

表紙

26 官版実測日本地図(かんぱんじっそくにほんちず)

伊能忠敬測定
大学南校 明治3年(1870)刊 4舗 141.8-204.9 × 83.5-226.8cm
伊能忠敬が1800年から1816年にかけて全国を測量した資料をもとに刊行したもの。当時としては世界に類を見ないほど精度が高く、現代の地図と比べても誤差がほとんど無い。

展示にあたって
今回は、本学付属図書館が所蔵する古地図の中から日本のものを中心に展示しました。世界地図、日本地図、日本国内・各地の地図(北から南へ)という順で配置していますが、それぞれの地図が、時を経て少しずつ正確になっていく様子もお分かりいただけるかと思います。また、初期の世界地図の中には、作成者が行ったことのない土地が想像で描かれていたりと、興味深い史料もございますので、いくつかの地図を見比べてご覧いただけると、楽しんでいただけるのではないかと思います。

< 付属図書館所蔵古地図展 >

2008年6月2日発行
東海大学付属図書館

2008年6月2日(月)～7月19日(土)
於 湘南校舎11号館展示室